

神産巢日神の靈言

担当:石田昭 2015年4月7日

- 1 南九州に在った王朝で、天御中主神が初代（男神）、高御産巢日神が第二代（男神）、その後を継いだ三代目の王（女神、造化の三神の一柱）。一万数千年前にムー帝国から来た。
- 2 天照大神を天上界から指導した。「天津神」は宇宙から来た神、「国津神」は地上で神格を持った神。私は国津神である。その前は宇宙とも関連がある。日本では最初の女神。
- 3 女性としては伊邪那美や天照大神よりも先んじて地上に生まれた。しかし、記紀では伊邪那岐神や天照大神が国づくりをしたとされ、不利益（？）な取り扱いが為されている。
記紀は持統天皇の時代に、女帝の権威付けのため作成。では、なぜ神産巢日神でなく、天照大神なのか？
- 4 日本神道の主流である天御中主神、天照大神の「光一元」思想は地獄を實在のものとは認めていない。しかし、古来から「死者の蘇り」を恐れ、「重い石を抱かせて埋める」とか、邪霊を払う（陰陽師）とかをやっていて、「光一元」思想には矛盾がある。「光あれば、闇なし、全てうまくいく」と言いくるめていく思想（例：生長の家など）と、「現に悪はある、それを粉碎せねばならん」という思想とが混ざっている。
- 5 日本神道の主流を光一元「本来闇なし」としたのが伊邪那岐神、「悪とは戦うべし」と主張したのが、伊邪那美神。この時代に日本神道は二派に分かれた。（一元論と二元論）
- 6 私は女性であったが、現実的な政治・経済の能力が高い神であり、靈的なものや信仰的なものを、あまり強く出していなかった。ソクラテス・ハイエクの思想につながっている？
- 7 私の考え方は「この地上を縁として、天国・地獄が分かれるのなら、地上自体を、住みよい、幸福な世界にすることで解決されていく」という考え方である。
- 8 「地上を媒介として、善悪が現れてくるように見えるので、地上をユートピア化していくことで解決できる。」これが私の中心思想。指導者は政治的にも、宗教的にも地上をユートピア化するために努力すべきである。「正心法語」地上に悪霊、来世に悪魔・・・あるべからず。
- 9 実は先の大戦でアメリカに敗れたことにより、天御中主神と天照大神の考え方に、ひびが入った。アメリカの思想には「正邪をただし、邪なるものは潰す」という考えがあり、敗戦によってこの思想が日本に入ってきた。敗れたので、日本神道に揺らぎが出ている。
- 10 伊邪那美神の考えにも一理ある。悪の部分認めなければ、仏教も成り立たない。戒律も八正道もありえない。
日本神道には何通りもの考え方がある。
- 11 日本神道は考え方のひだがあまりにも少なすぎ、簡単に考えていた。アメリカは「悪に対してはテクノロジーを発展させて叩き潰す」という考え方であり、日本神道は弱すぎた。
- 12 伊邪那美神の意味は「善悪を峻別する神」であるが、今は詳細をコメントできない。具合の悪い事がある。言うところの障りがある。*K氏とどのような関連があるのか不明。*
- 13 黄金の法に、転生は「ミカエル」とあるが、そのものではない。思想的に近いものはある。いくつかの有名な女性として分霊が出たことはあるが、名前を残さないことが多い。
- 14 幸福の科学の運動が「大東亜共栄圏」「八紘一宇」のやり直しなのか、地球神と名乗って同じことをやろうとしているのか、同じなら、また世界から弾圧を受ける。現在の運動で「日本神道色が強くない」のはよい事だと思う。今、幹部は明治維新に光を当てている。
- 15 「救世主を生む民族というのは、ある程度選ばれている」と言える。秘密があるが、「神の世界計画知る」ことはとても難しい。ユダヤ民族とも深い関係がある。

担当者の推測：神産巢日神の思想はソクラテス・ハイエク・家康に近い思想なのでは。日本神道の中では親神であるエルカンターレの思想に一番近いのではないかと。忍耐を要するこの世の修行で神格を得る魂。